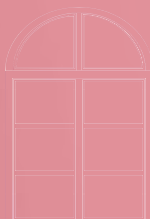


Japan Sash Manufacturers Association

J
S
M
A

第2章 立地環境別防犯 対策のポイント





侵入盗被害想定を読み方

侵入盗の被害想定は、代表的な侵入経路、周辺環境等を想定し、その対策ポイントを、周辺環境と建物環境の視点から考察し、防犯対策プランをご提案しています。

被害の想定

1 周辺環境

被害に遭う要因は、その家自体だけでなく周辺環境にもあります。被害想定現場の周辺状況を地図で表し、現場状況や侵入盗の侵入経路、侵入手口など、なぜ被害に遭ったかを環境面からも分析・考察します。

2 侵入経路

なぜ侵入盗に狙われ、侵入されたかを、想定した犯行経路をたどって分析します。

3 防犯対策のポイント

想定事例における防犯対策の具体的なポイントと防犯対策におすすめの商品を紹介します。被害に遭う前と対策後の違いを図解で分かりやすく説明します。



住宅の立地環境別被害想定分類

ここでは、住宅の立地環境別に、4タイプに分類しました（下表参照）。
実際のプランニングの際、具体的なイメージがしやすく、侵入窃盗の行動から防犯のポイントを掴むことに役立ちます。

立地環境分類表

住宅密集 タイプ	住宅密集地に立地しているタイプ。 まわりの住宅は、築年数の長い家が多く、狭い路地やブロック塀・植栽などの身を隠しやすい環境が死角となっています。	File No. File No.1 File No.2	ページ 12~15
周辺空き地 タイプ	住宅地ではあるが、住宅周辺に駐車場などの空き地環境が隣接しているタイプ。 駐車場などから住宅内の様子が観察しやすく、下見や不在確認が容易に行なえる環境となっています。	File No. File No.3 File No.4	ページ 16~19
共同住宅 タイプ	アパートなどの共同住宅が隣接しているタイプ。 共同住宅が家の裏側に建てられ、家の裏側は人の出入りが多く、不審者の見分けが困難で、共同住宅の住民は昼間不在が多く周囲の監視性が低い環境となっています。	File No. File No.5	ページ 20~21
オープン 外構タイプ	敷地境界に囲いのない新興住宅地に立地しているタイプ。 周辺から敷地内の様子が見えやすく、敷地内へ侵入が容易な環境となっています。	File No. File No.6 File No.7	ページ 22~25

File No.1 住宅密集タイプ

被害の想定

買い物で外出のスキを狙う。路地から裏手にまわり窓ガラスを割って侵入。

■周辺環境

- ①前面道路は大通りから1本入った道で片側交互通行のため、人通りが少ない。
- ②路地が通り抜け可能で、住民以外出入りができる。
- ③隣家と隣りあわせで人目に付かず、見つけにくい。

■侵入経路【図A参照】

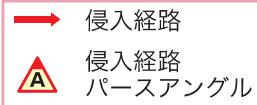
- 細い路地をまわり、家の裏側から敷地に侵入。

■侵入口【図B参照】

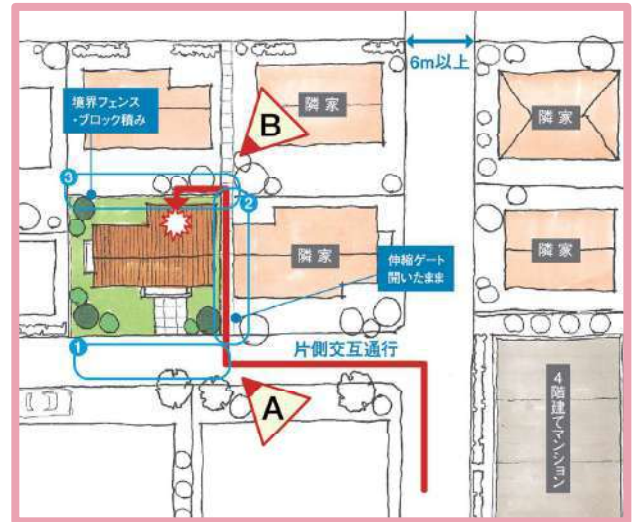
- 家の裏手側にある掃き出し窓。

■侵入手口

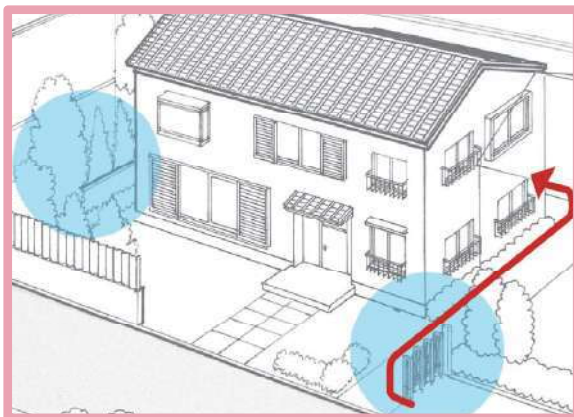
- ガラス破り。



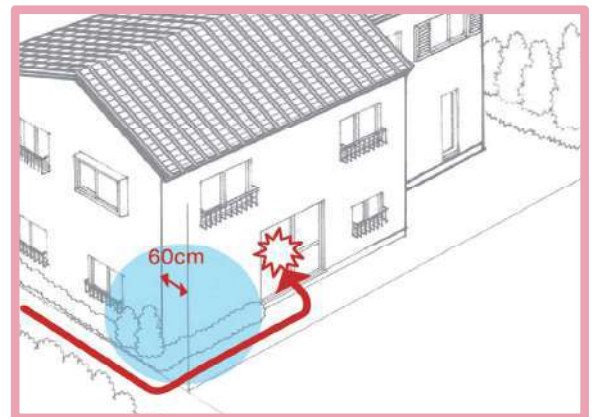
(周辺図)



図A：路地から裏手に



図B：掃き出し窓から侵入



〈要因〉

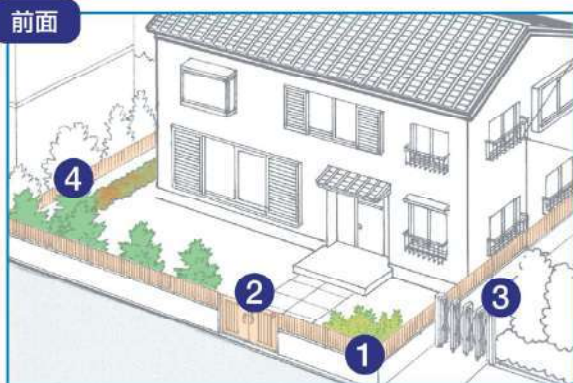
- ・敷地境界部はゲート以外に対策が施されていない。
- ・伸縮ゲートは設置されているが、開放状態になっている。
- ・植栽が密集しており、死角がしやすい。

〈要因〉

- ・被害住宅と隣家の間が60cmと非常に狭く、人目に付きにくい。

防犯対策のポイント

前面



ハードで対策

- ①境界を剣先付きフェンスなどで囲う。
- ②門扉を付けて侵入動機を減少させる。

環境で対策

- ③伸縮ゲートは閉める事を習慣化する。
- ④植栽の間隔を広げ見通しを良くする。植栽の手入れを定期的に行い、高くて視線を遮る植栽は低くする。



◇剣先付きフェンス◇

裏手



ハードで対策

- ⑤窓を補助錠付きサッシに替えたり、ガラスを防犯合わせ複層ガラスに取り替えるなど窓の防犯機能を強化し、ガラス破りによる侵入を防ぐ。家の裏にセンサー付き照明を取り付ける。

環境で対策

- ⑥近隣との連携（路地の通り抜けの制御）を図る。



◇防犯合わせ複層ガラス◇



◇窓の補助錠◇



◇センサー付き照明◇

File No.2 住宅密集タイプ

想定される侵入経路

正面から堂々侵入。玄関脇の窓ガラスを割って侵入。

(周辺図)

■侵入経路【図A参照】

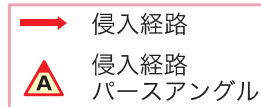
- 開け放しの門扉から玄関脇へ。

■侵入口【図A参照】

- 家の玄関脇にある掃き出し窓。

■侵入手口

- ガラス破り。

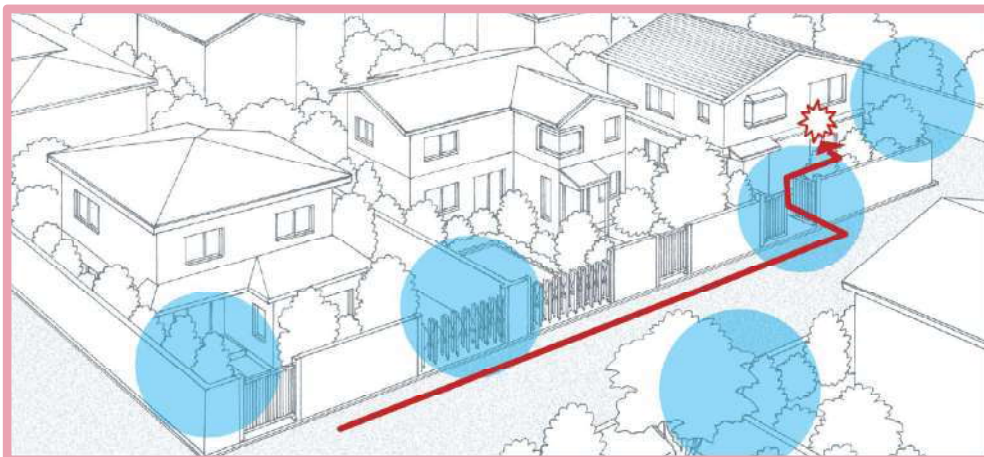


周辺環境

- ①人通りの多い幹線道路に抜けられる道がある。
- ②建物が路面に対して凸凹になっているため死角が多く、また、区画全体に植栽が多いため、見通しが悪い。
- ③周辺の交流はあるが、昼間不在のところが多い。

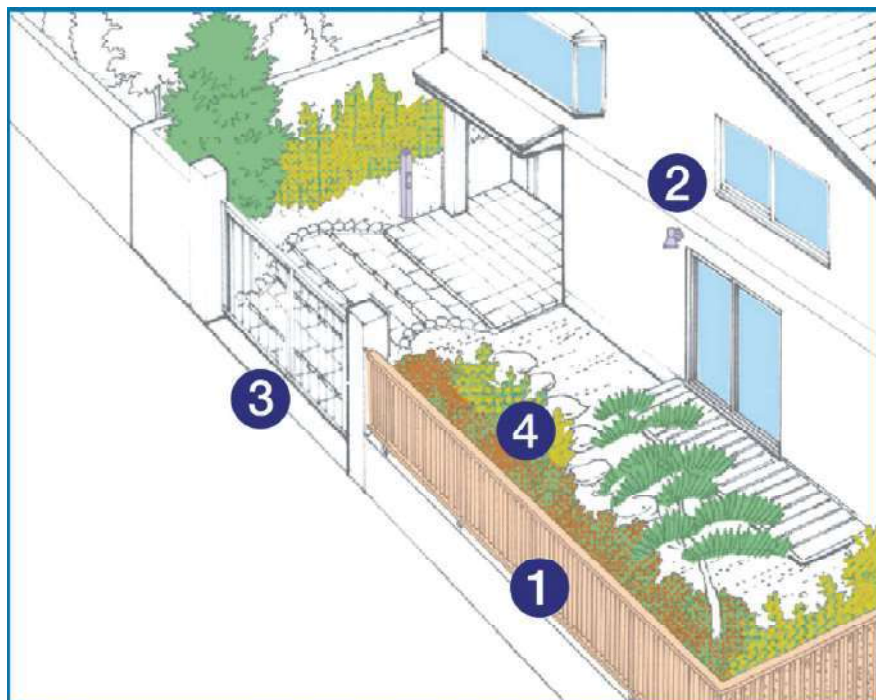
侵入経路

図A：門扉から掃き出し窓へ



〈要因〉

- ・袋小路状で、人のみを通れる道（抜け道）があり逃走しやすい。
- ・ブロック塀で囲まれているため、死角になる。
- ・門扉が開け放しで侵入しやすい。
- ・敷地内の植栽がかなり密集している。



ハードで対策

- ①ブロック塀をフェンスに変更する。
- ②窓に補助錠追加、ガラスを防犯合わせガラスに取り替えるなど窓の防犯機能を強化し、ガラス破りによる侵入を防ぐ。
掃き出しの窓のそばにセンサー付き照明を取り付ける。

環境で対策

- ③門扉の施錠の習慣化を徹底する。
- ④植栽の手入れの定期的化や取り替えを検討する。
- ⑤地域との連携を深め、区画全体で防犯対策を施す。



◇門扉◇

File No.3 周辺空き地タイプ（住宅地）

想定される侵入経路

公園で侵入口の下見。隣家のブロック塀を足場に台所の窓から侵入。

■侵入経路【図A参照】

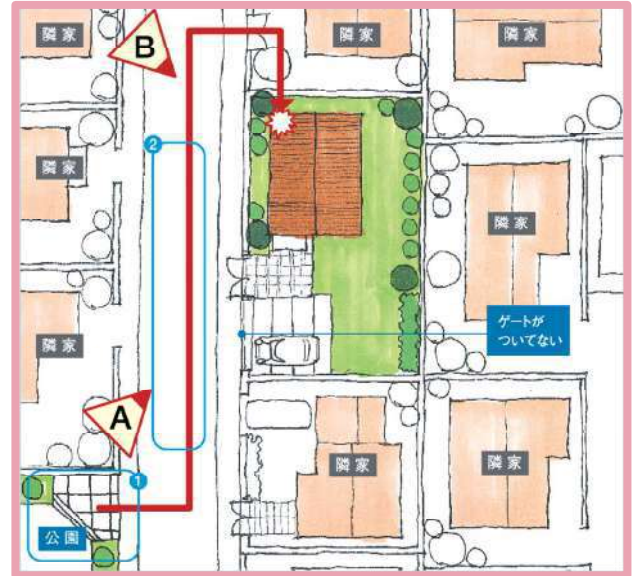
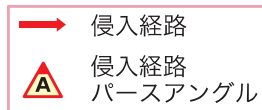
- 隣家の門扉からブロック塀を乗り越える。

■侵入口【図B参照】

- 住宅側面にある台所の窓。

■侵入手口

- ガラス破り。



(周辺図)

周辺環境

- ①近隣に公園があり、下見・不在確認がしやすい。【図A参照】
- ②住宅街で昼間の人通りが少なく、監視性が低い。

侵入経路

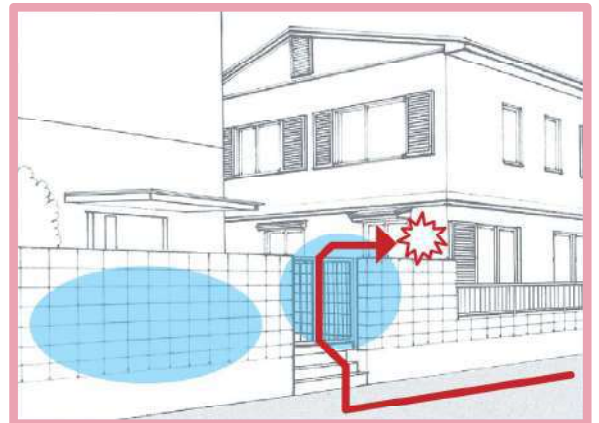
図A：玄関側から不在確認



〈要因〉

- ・駐車場にゲートがないため、下見・侵入・逃走がしやすい。
- ・駐車場にゲートがないため、車上狙いの対象となりやすい。

図B：台所の窓から侵入

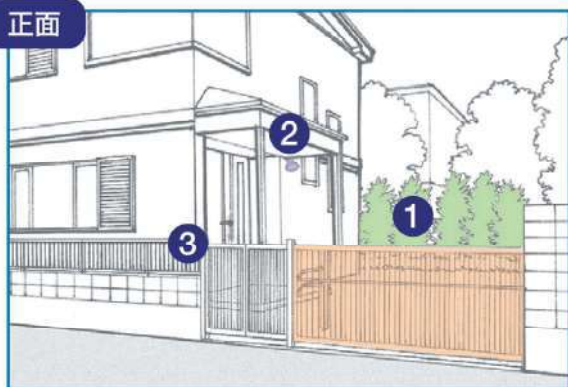


〈要因〉

- ・侵入口となった家の裏口の隣地境界はブロック塀であり、死角になりやすい。
- ・周囲の住宅もブロック塀で囲われ、監視性が低い。

防犯対策のポイント

正面



ハードで対策

- ①ゲートを設置し、敷地侵入動機を抑制する。
- ②センサー付き照明を取り付け、侵入者を光で威嚇する。
(車の盗難、車上狙い対策にもなる)

環境で対策

- ③門扉の施錠の習慣化を徹底する。
(隣家も含む)



◇窓シャッター (CP 製品)◇

側面



ハードで対策

- ④侵入口の窓に防犯性能の高い窓シャッターや面格子を取り付けし、夜間及び不在時の侵入盗を防ぐ。

環境で対策

- ⑤隣家と地域の防犯対策について協議する機会を設け、ブロック塀をフェンスや生垣など見通しの良いものに変える。



◇面格子 (CP 製品)◇

File No.4 周辺空き地タイプ（住宅地）

想定される侵入経路

ガレージが留守サイン。【図B参照】
 駐車場から塀や物置を足場に
 二階の窓から侵入。

■侵入経路【図A参照】

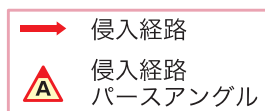
- 背後の塀から、物置を足場に屋根を伝い、二階窓へ。

■侵入口

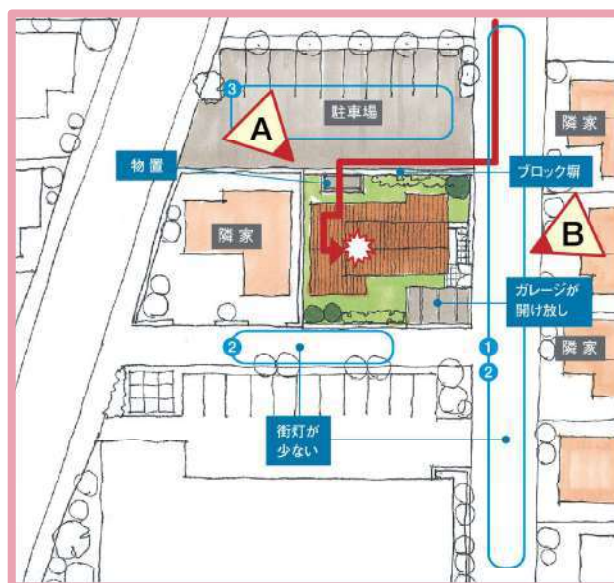
- 二階の窓。

■侵入手口

- 施錠忘れ。



(周辺図)

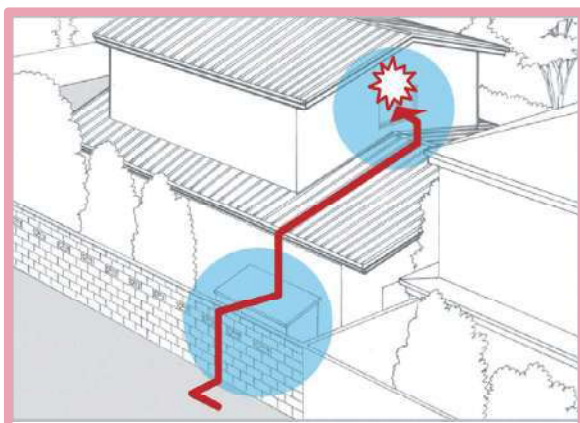


周辺環境

- ①近周辺道路は、人通りが少ない。
- ②駐車場側からの監視性が低い。
- ③駐車場が隣接し、下見しやすい。

侵入経路

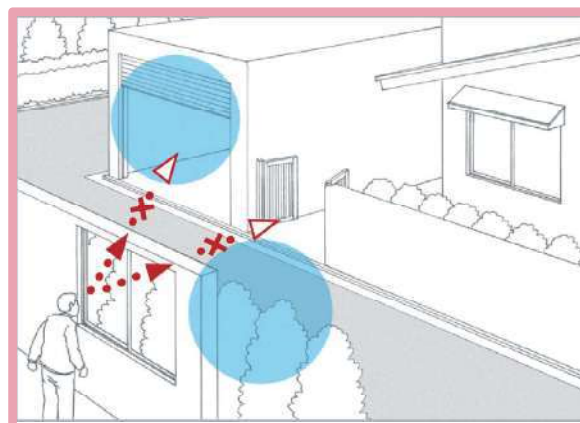
図A：塀・物置を足場に屋根へ



〈要因〉

- ・開口部のあるブロック塀・物置が足場となり、二階へのぼりやすい。
- ・窓の錠は、常時、開け放し状態になっている。

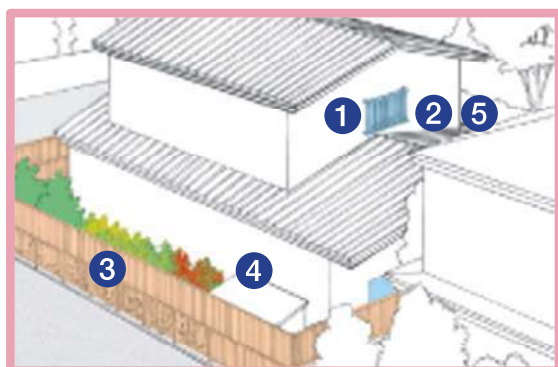
図B：開け放しのシャッターで留守確認



〈要因〉

- ・ガレージのシャッターが常に開放されており、車の有無で不在確認がしやすい。
- ・周辺住宅に植栽が多く、街灯も少ないため監視性が低い。

防犯対策のポイント



ハードで対策

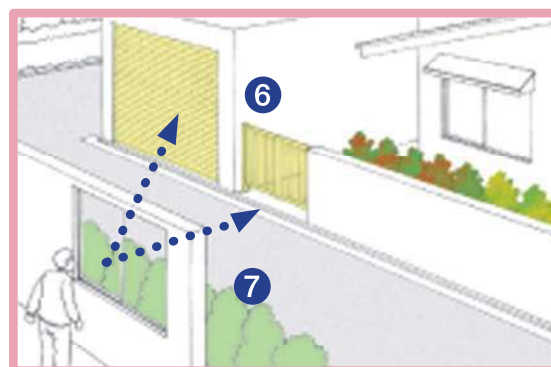
- ①二階の窓に面格子を取り付け、侵入動機を抑制させる。
- ②窓に補助錠を追加、ガラスを防犯合わせガラスにするなど窓の防犯機能を強化し、ガラス破りによる侵入を防ぐ。
- ③ブロック塀を2段フェンスに変更する。

環境で対策

- ④物置など二階へ足場となるものを建物近くに設置しない。
- ⑤施錠の習慣化を徹底する。



◇面格子 (CP 製品)◇



環境で対策

- ⑥ガレージのシャッターを閉めることを習慣化する。
- ⑦近隣在住者との連携強化。見通しの良い住環境地域として整備する。



◇2段フェンス◇

File No.5 共同住宅隣接タイプ

想定される侵入経路

共同住宅の住民にまぎれて下見。裏手にまわり、窓ガラスを割って侵入。

■侵入経路

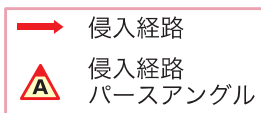
- 袋小路から住宅裏手にまわりコーナー窓へ。【図 A、B 参照】

■侵入口

- 居間のコーナー窓。【図 C 参照】

■侵入手口

- ガラス破り。



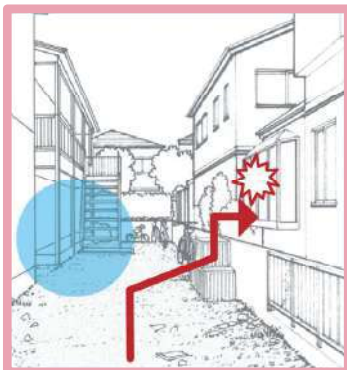
(周辺図)

周辺環境

- ①被害住宅周辺は、人通りが少なく袋小路へ入りやすい。
- ②背後に共同住宅があり、不特定多数の人が出入りしやすい。
- ③街灯がなく、深夜は隠れやすい。

侵入経路

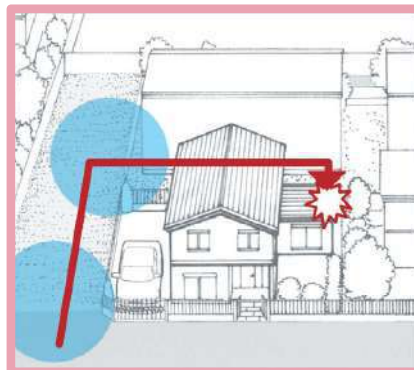
図 A：共同住宅へ袋小路から家の裏手へ



〈要因〉

- ・被害住宅側面の、共同住宅入口へ続く道路が袋小路になっており、人通りが少なく袋小路へ入りやすい。

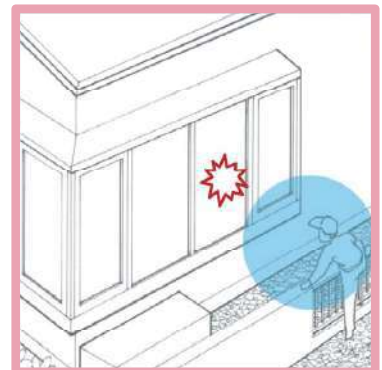
図 B：人目に付かない家の裏手側



〈要因〉

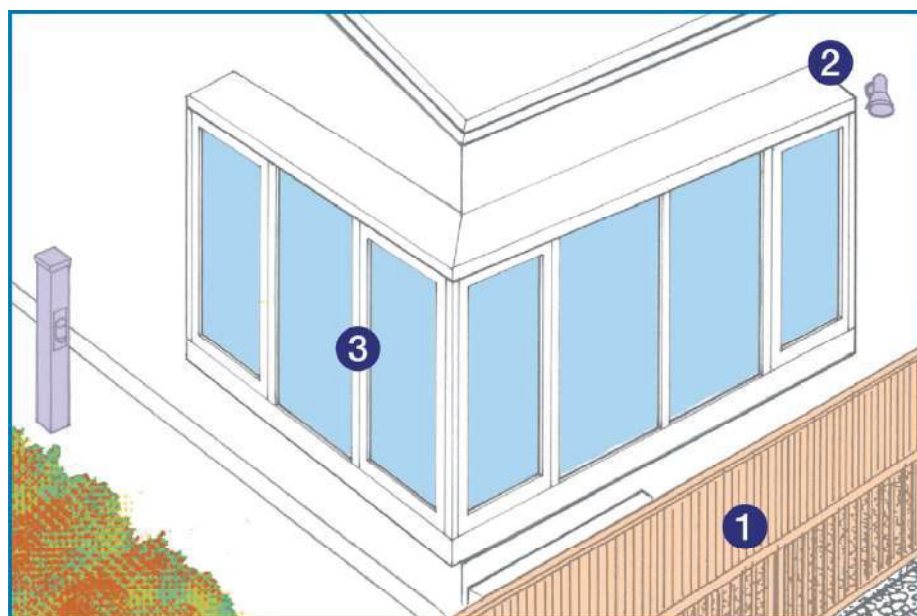
- ・被害住宅の裏口に共同住宅の入口があり、不審者の識別が難しい。
- ・街灯がなく、深夜は人影が判別しにくい。

図 C：居間のコーナー窓から侵入



〈要因〉

- ・境界のフェンスが 800 mm 程度と低く敷地に入りやすい。



ハードで対策

- ①家の裏手側の境界フェンスを高いものに交換し、敷地侵入動機を抑制する。
- ②家の裏手にセンサー付き照明を取り付け、光で威嚇する。
- ③出窓に補助錠を追加、ガラスを防犯合わせガラスにするなど窓の防犯機能を強化し、ガラス破りによる侵入を防ぐ。

環境で対策

- ④近隣との連携強化。
- ⑤袋小路の周辺に街灯設置を検討する。



◇見通しを確保した2段フェンス◇



◇センサー付き照明◇

File No.6 オープン外構タイプ

想定される侵入経路

住宅裏手の空き地側、浴室の窓から侵入。

(周辺図)

■侵入経路

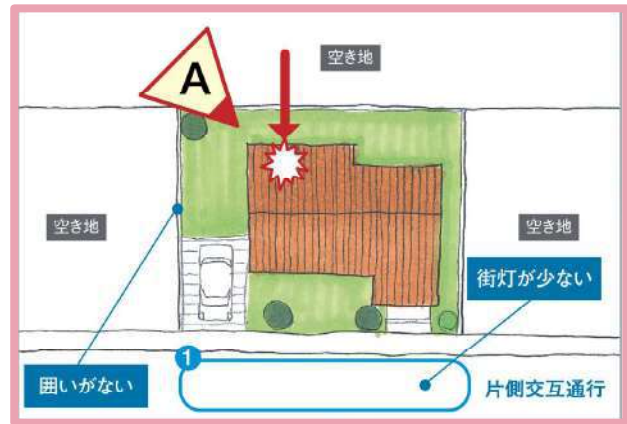
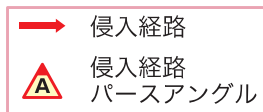
- 家の裏にある空き地から。

■侵入口

- 浴室の窓。【図A参照】

■侵入手口

- 施錠忘れ。

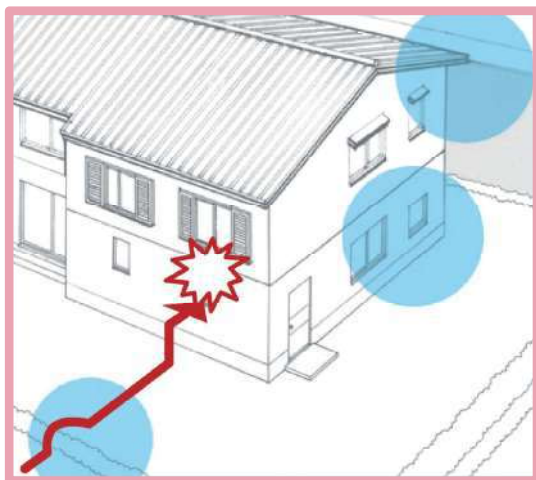


周辺環境

- ①開発途中で周りに家が建っておらず、周辺境界がオープンになっている。
- ②夜間は交通量が少なく、また街灯もなく、暗いので視認性が悪い。

侵入経路

図A：家の裏手の浴室窓から侵入



〈要因〉

- ・人通りが少なく、周辺に視線を遮るものがないため、監視性が低く、下見・不在確認がしやすい。
- ・夜間、照明の明かりにより、不在確認がしやすい。
- ・敷地周辺が囲われておらず、侵入しようとする場所に近寄りやすい。

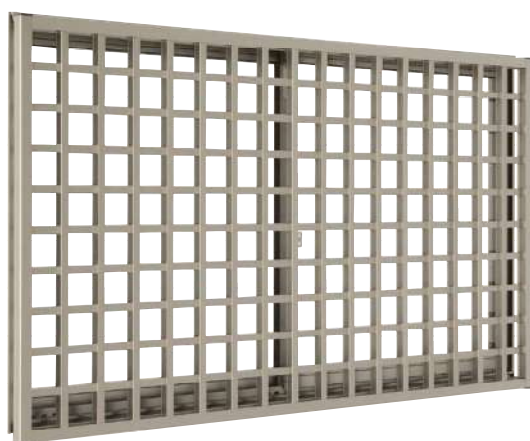
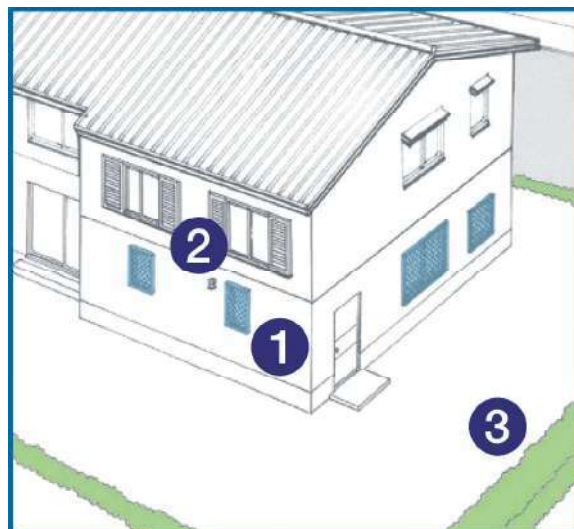
防犯対策のポイント

ハードで対策

- ① 侵入口となった浴室の窓に、面格子を設置する。
- ② 光で威嚇するセンサー付き照明を取り付ける。

環境で対策

- ③ 周辺に高さ 1200 mm程度の生垣を設置する。(視線を遮らない)



◇面格子 (CP 製品)◇



◇センサー付き照明◇

File No.7 オープン外構タイプ

想定される侵入経路

オープン外構の死角をつき、住宅正面の窓から侵入。

■侵入経路

- 住宅の正面側から掃き出し窓へ。
【図A参照】

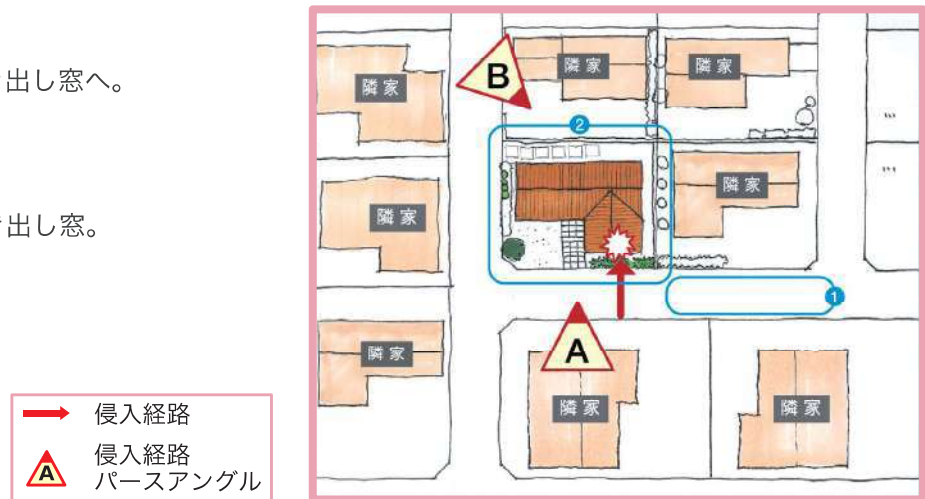
■侵入口

- 住宅の正面にある掃き出し窓。

■侵入手口

- ガラス破り。

(周辺図)

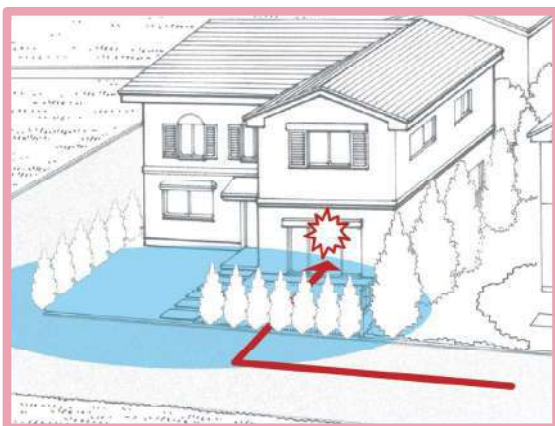


周辺環境

- ①新興住宅地で人通りが少なく、監視性が低い。【図B参照】
- ②敷地境界がわかりにくい。

侵入経路

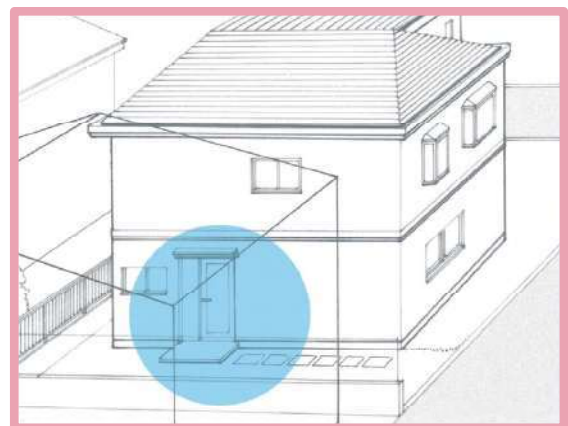
図A：家の正面、掃き出し窓から侵入



〈要因〉

- ・周辺が囲われておらず、侵入しやすい。
- ・侵入口の前は、繁茂した植栽があり、死角となりやすい。

図B：人通りの少ない家の裏手も危険

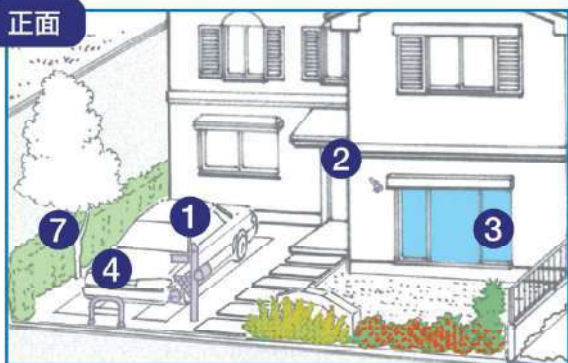


〈要因〉

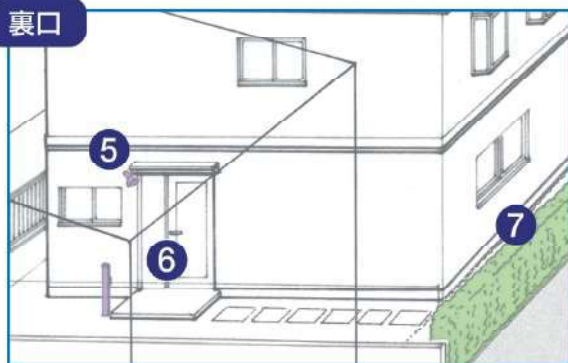
- ・住宅の背後は、特に夜間だけでなく日中も人目に付きにくい。

防犯対策のポイント

正面



裏口



ハードで対策

- ① 正面入口には防犯性能をプラスした機能門柱を設置する。
- ② 侵入された場所の掃き出し窓付近にセンサー付き照明を取り付ける。
- ③ 一階の窓に補助錠を追加、ガラスを防犯合わせガラスにするなど窓の防犯機能を強化し、ガラス破りによる侵入を防ぐ。防犯性能の高い面格子を取り付ける。
- ④ 駐車場は、車止めを取り付け、車のいたずら・盗難を防止する。

ハードで対策

- ⑤ 住宅裏手の勝手口周辺にセンサー付き照明を設置する。
- ⑥ 住宅裏手の勝手口には防犯性能の高い補助錠を取り付ける。

環境で対策

- ⑦ 側面の道路との境界を高さ 1200 mm程度の生垣を設置する。〈視線を遮らない〉



◇車止め◇

